

1. 評価結果概要表

作成日 2008年11月17日

【評価実施概要】

事業所番号	0873600589
法人名	有限会社 イケナガ
事業所名	グループホーム はさき寿長生の家
所在地	茨城県神栖市波崎5560-1 (電話) 0479-44-0204

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台4-9-3 D101		
訪問調査日	平成20年8月31日	評価確定日	平成20年12月10日

【情報提供票より】(平成20年8月2日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年11月24日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 7人, 非常勤 8人, 常勤換算	7.75 人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費18,000 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	250 円	昼食 400 円
	夕食	500 円	おやつ 150 円
	または1日当たり 1,300 円		

(4) 利用者の概要(8月1日現在)

利用者人数	18 名	男性 3 名	女性 15 名
要介護1	3 名	要介護2	3 名
要介護3	9 名	要介護4	3 名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 85.2 歳	最低 75 歳	最高 94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	神栖済生会病院 岩上歯科医院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

利根川の下流に隣接し海や陸に囲まれ自然豊かな住宅地の一角にあるホームとなっている。ホームの庭は、広く家庭菜園も豊富で季節に応じた収穫を職員と利用者が楽しんでいる。また地域に密着したホームを目指しており自治会などに積極的に参加し、地域に見守られ利用者が安心して生活できる空間となっている。安心して生活する中で、職員の数を多くし手厚いケアと利用者のペースにあわせたゆったりとした援助を提供しており、私たちの来所に対しても利用者の笑顔が多く見られた。
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の調査によりケアプランへの積極的な情報収集及び災害対策と備蓄品の整備について取り組まれた。情報に関してはBS法を用いた情報収集を行い、それをもとに意直し、評価を行い職員全体で利用者把握出来るよう継続し取り組まれている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全体で取り組まれており、職員も外部評価に対し理解しケアの向上に取り組まれていた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	行政の指導の下、現在6ヶ月に1回のペースで運営推進会議が行われている。今後は、家族会などを設置し、さらに充実した推進会議の開催を計画している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族からは、面会時に積極的に職員からの情報を伝えたり、意見箱を利用するなど積極的に意見情報の収集に対する働きかけを行っている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域との連携は、特に密に行われており、各種のイベント等に利用者を交えて参加し、またホームのイベントには、積極的に近隣の高齢者に参加を促すなどして、ホームと近隣住民の関わりを密に保つことで利用者の安心した生活が継続できるよう努力されている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム独自の理念を掲げ、地域に密着したケアの提供を心がけている。利用者が地域に見守られながら安心して生活できるよう来訪者などにも積極的に関わりを持つようにしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝のミーティングやカンファレンスの時間を使い職員全体で理念やケアにおける心配りについて唱和し、理念が職員全体に浸透しケアに反映するよう配慮し取り組まれている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者が地域とともに安全にゆったりと生活できるよう、地域にホームの取り組みを理解してもらい、地域の来訪者も多くまたホームから地域に積極的に働きかけを行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価に対し積極的な取り組みが見られた。	○	今後は、現在の取り組みのほか職員全体で外部評価の意義や意味をさらに深く追求しケアの質の向上の取り組みの一つとして取り組むことが期待される。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は行政指導の下、職員・行政・地域の代表者の参加をもって半年に1回の開催となっている。	○	運営推進会議をさらに有効に活用し、家族からなど具体的な意見や情報を収集する場として積極的に開催し、ホームのケアの向上に役立てられるような取り組みが期待される。

茨城県 グループホームはさき寿長生の家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>代表者及び管理者が積極的に行政に足を運び、その運営や情報の交換に積極的な関わりを継続している。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>定期的に便りを発行し家族に、現況の報告を行うほか、利用者の急な状況の変化について電話連絡するなど個々にあわせた報告を行っている。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族の意見を、面会時や意見箱の利用により積極的に受け入れられるよう工夫している。今後は、推進会議などを利用しさらなる意見の収集に期待される。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の退職および移動が少なく利用者さんとも馴染みの関係となり良好な関係を保っている外、利用者全体をすべての職員で把握し良好な関係を維持できるよう努力されている。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員が、外部研修などに積極的に参加出来るよう出勤扱いで研修に参加できるほか、交通費、食事代の支給もあり職員の負担が少なく研修に参加できるよう配慮されている。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会、小規模多機能ホーム協議会、茨城県地域密着型サービス協議会等に参加し交流につとめ勉強会などで情報交換を行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者は、有料の体験入所を行ったり、通所サービスなどを利用し馴染みや環境への不安を減らし入居できるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	畑仕事や台所の役割など利用者の特技を生かし、教えていただく姿勢を職員がもち、ともに支え合う関係を維持しながらケアの提供に心がけている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	朝食や起床時間など利用者の意向や希望を把握し利用者のペースを重視したケアの提供が行われている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	BS法を取り入れ、利用者の状況を職員全体で把握し、その内容をケアプランに反映しその人らしさが損なわれないよう計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直し、カンファレンスを積極的に行い、職員全体で関わり見直し、家族等にも話し合い現状に即した計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ボランティアやホームのイベントなど積極的に近隣の住民に参加を促し積極的に事業所の多機能性を生かし取り組まれている。また入居の際も利用者の不安を最小限にし入居できるよう工夫されている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の馴染みのかかりつけ医に受診可能になっており、また連携医師の月一回の往診も行われている。薬の受領や連携医師以外の受診に関しては、有料の送迎で家族の負担も考慮されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	実例が無く検討中の事項でもあるが、医療行為の開始に伴い病院や施設の入所を検討している。	○	今後利用者の高齢化もあり重度化終末期など最終的な方向性を家族と検討し書面や記録に残すなどの取り組みに配慮されたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録等の管理を書庫で行い情報の漏洩に配慮されている。また利用者に対してもプライバシーや羞恥心への配慮が細かい気配りにより配慮されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や起床時間など出来る限り利用者のペースにあわせ、その人らしい生活が提供できるよう配慮されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と主に食事の準備を行い、利用者と職員で楽しみながら食事の時間が提供できるよう配慮されている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間の設定はあるが、その中でも利用者の希望を重視し利用者の意向に応じた入浴の提供が行われている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑仕事や裁縫など利用者の特技や経験を生かした役割が提供され、それぞれが参加できるよう配慮され、利用者の楽しみや役割として位置づけられている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日々の外出は、近隣地域の協力や見守りなどもあり積極的に提供されている。買い物などは、車を使うことが多く利用者の希望などにより外出、ドライブなどが提供されている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	地域住民の見守りなど利用者の安全を確保し鍵をかけないケアの提供を実施している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	大規模災害に備えての消防や、行政の指導のもと、訓練および備蓄品の確保など行っている。	○	今後は地域の広域避難場所の職員間での確認を行い災害時の安全のさらなる配慮に取り組みが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に水分量や食事の摂取状況など細かく記載され個々の状況が把握しやすいように工夫されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には、季節の花や時を知らせる物品を積極的に配置し生活感や季節を取り入れ過ごせるようになっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者の家族等の協力の下、馴染みの物品などを多く用いたその人らしい生活感のある居室空間が作られている。		